

NFFIS & Eco-DRR Newsletter

Project on Capacity Building for Disaster Risk Reduction through
National Forest Fire Information System (NFFIS) and Eco-DRR
Mar 2021 - Feb 2026

国家森林火災情報システム（NFFIS）とEco-DRRによる災害リスク削減のための能力強化プロジェクト

本プロジェクトの目的は、森林火災及びその他自然災害の防災・減災にかかる政府関係者の能力がNFFIS 及び生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR）の導入を通じて強化されることです。

Vol8では、2024年7-2025年1月の活動を報告いたします。



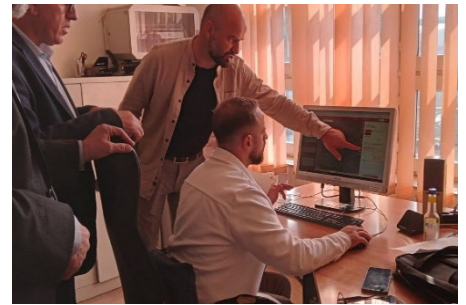
コソボ・モンテネグロの首都とプロジェクトサイトの位置

NFFIS-MEFFISの強化



災害リスク管理のさらなる向上を目的として、コソボ内務省危機管理庁（EMA）は、国家森林火災情報システム（NFFIS）に森林火災情報を登録する112名のオペレーターの能力強化を目指し、集中研修プログラムを開始しました。研修は6つの地域で実施され、開発者が現場でシステムの更新やNFFISが作成するインシデントレポートの重要性について指導を行いました。その結果、約90名のオペレーターがNFFISの活用に習熟し、知識の共有とEMAの森林火災管理能力の強化が図られました。

森林火災管理にとどまらず、コソボとモンテネグロの両国は、災害対応能力の拡大に大きく前進しています。今年、NFFIS（コソボ）とMEFFIS（モンテネグロ）は、地震や洪水などのリスク管理機能を統合し、マルチハザードプラットフォームへと進化しつつあります。この拡張は、両国の災害準備・対応メカニズムを強化するうえで、重要な一歩となります。



NFFIS開発者とEMAによる112名のオペレーターの訓練の一環でデータを入力を行っている様子

アウトプット2.2 Istog自治体における防風林



過去に強風の被害を受け、授業の継続が困難になったことがある学校を活動地として選定しました。

事前調査の結果、イストグ地域の固有種や既に地域に自生している樹種の中から苗木が選定され、風向きや過去の強風被害のデータをもとに作成された植栽デザインが3校を対象に用意されました。

特にKaliqan村のZymer Zeka校は、過去に大きな強風被害を受けた学校であり、植栽エリアは他の2校よりも広く設定されました。

植樹祭は Zymer Zeka校のエコ・グループとともに開催され、植樹セレモニーの他、同校のフォークロア・チームによる文化イベントも行われました。また、市の職員も参加し、施設や設備を守るため新しい苗木を植えました。



子木を植え、大切に育てることを約束している生徒たちとフォークロアチーム

モンテネグロにおける欧州防災フォーラム(EFDRR)



今般モンテネグロではEFDRRが開催され、ヨーロッパとアジアの55カ国から600人以上の参加者が集まりました。この会議では、防災に関する協力や知識の共有が促進されました。JICAプロジェクトは西バルカン地域への継続的な支援について強調し、同フォーラムにおいて重要な役割を果たすことができました。

参加者は、パンフレットや資料を通じて、現在進行中のプロジェクトについて詳しく知る機会を得ました。またJICAブースは、防災と持続可能な開発への取り組みについて、参加者へ情報発信できる貴重な機会となりました。

また、EFDRRの一環として、JICAプロジェクトはウルチン市への現地視察を特別に企画しました。約70名の参加者は、実際にプロジェクトサイトを訪れ、プロジェクトの進捗状況を直接確認しました。また参加者は、伝統的な民族衣装を着たエコグループのメンバーらによって温かく迎えられました。視察に加え、参加者一人ひとりが木を植える植樹イベントも行われました。このイベントで使用された苗木は、JICAプロジェクトと森林管理局の協力により、Bar市の苗圃より提供されたものです。

EFDRRは、国際的な協力の重要性を改めて示すとともに、防災管理と環境の持続可能性において、モンテネグロの国際的な役割を確立する機会となりました。



EFDRRに参加した各国代表者たち



EFDRRイベントに企画された現地視察

Ulcinj市の海岸林におけるプロムナード



本プロジェクトでは、Eco-DRR活動として、南部のウルチンの海岸林を、環境啓発や植林等の管理能力強化により後世に残すことを可能とさせる活動を進めています。その一環として、この度ウルチン市に「モンテネグロ・日本プロムナード」を建設し、無事に開通させました。この全長440メートルの遊歩道は、松林の中を緩やかに曲がりくねりながら進む、自然豊かな散策路です。観光と自然環境の調和を促進するとともに、訪れる人々にこの地域の穏やかな美しさを体験してもらうことを目的としています。

観光客と地元の人々それぞれにとって安全で快適な環境を作るため、遊歩道の建設には茂み、廃棄物、倒木、枯れ木の除去を含む森林整備が必要でした。整備を実施したことにより、訪れる人々が自然の静寂を楽しみつつ、生態系サービスの恩恵を受けることができる、利用しやすい空間が誕生しました。

豊かな森林の景観と澄んだ空気に包まれたこの美しい遊歩道は、散歩やジョギング、自然観察に最適な場所です。また、環境保護の重要性を学ぶ教育・レクリエーション活動の場としても活用されることが期待されています。

この取り組みは、モンテネグロが持続可能な観光開発に力を入れていることを示しており、自然環境を守りながら、観光客により良い体験を提供することを目指しています。環境に配慮した取り組みとインフラ整備を融合させることで、このプロジェクトは地域における責任ある観光の新たなモデルを築くものとなりました。

この取り組みは国営放送（モンテネグロ語のみ）においても取り上げられ、式典の様子やインタビューが紹介されています（9:51～）。インタビューではそれぞれプロジェクトの概要やウルチンでの活動、MEFFISの説明、海岸林活動関係者へのお礼等を述べています。



プロムナード・オープニング・セレモニー



プロムナードを歩く人々

成果毎の活動サマリー

コソボ 成果1

- ・NFFIS 拡張開始

モンテネグロ 成果1

- ・MEFFIS拡張開始

コソボ 成果2

- ・雪崩防止林のモニタリング
- ・防風林活動の実施

モンテネグロ 成果2

- ・Ulcinj市のプロムナードおよび海岸林補植
- ・Kolashin市のPFVRモニタリング



フォローしてください！

プロジェクト Facebook
<https://www.facebook.com/WestBalkanNFFISandEcoDRRProject>



コソボ内務省危機管理庁
Emergency Management
Agency (EMA)



モンテネグロ内務省
保護救助局
Rescue and
Protection
Directorate (RPD)



国際協力機構
Japan
International
Cooperation
Agency (JICA)